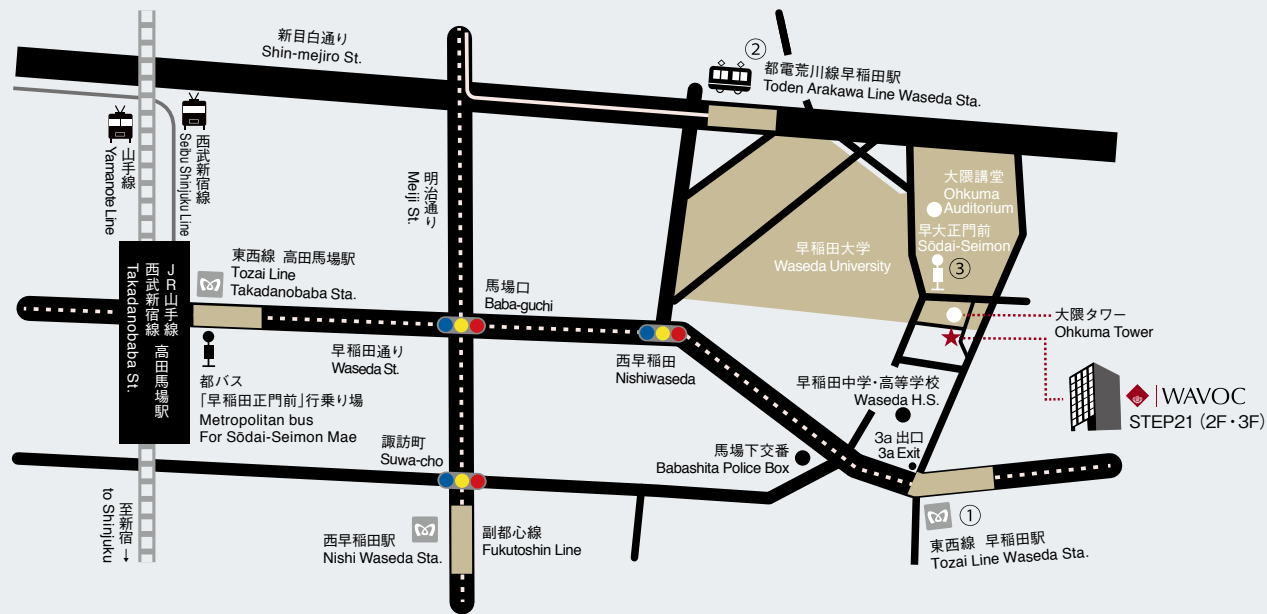


WAVOC

GUIDE BOOK

早稲田大学 平山郁夫記念ボランティアセンター
The Hirayama Ikuo Volunteer Center, Waseda University



- Access**
- 1 東京メトロ東西線「早稲田駅 (T04)」3a出口より徒歩5分
 - 2 都電荒川線「早稲田駅」より徒歩8分
 - 3 JR山手線／西武新宿線「高田馬場駅」より徒歩20分またはバスで「早大正門前」駅下車徒歩1分

- 1 5-minute walk from Waseda Station (T04) on the Tokyo Metro Tozai Line.
- 2 8-minute walk from Waseda Station on the Toden Arakawa Line.
- 3 20-minute walk from Takadanobaba Station on the JR Yamanote Line or Seibu Shinjuku Line.
1 minute walk from Sodai-Seimon-mae Station by bus.
The bus departs from Takadanobaba Station on the JR Yamanote Line or Seibu Shinjuku Line.

早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター The Hirayama Ikuo Volunteer Center, Waseda University

開室時間：平日 9:00～17:00 (土日祝日及び大学一斉休業日は閉室します)
〒169-0071 東京都新宿区戸塚町1-103 早稲田キャンパス99号館STEP21
TEL: 03-3203-4192

E-mail: wavoc@list.waseda.jp

URL: <https://www.waseda.jp/inst/wavoc/>

Office hours: Monday through Friday, 9:00-17:00.
(Closed on Saturdays, Sundays, public holidays and university closing days.)

Waseda Campus Building No. 99, STEP 21, 1-103, Totsukamachi, Shinjuku-ku,
Tokyo 169-0071 Japan

Phone: +81-(0)3-3203-4192

E-mail: wavoc@list.waseda.jp

URL: <https://www.waseda.jp/inst/wavoc/en/>

最新のボランティア活動や各種イベント情報はこちら

For more information about the latest volunteer activities and various events, follow us on our social channels (Japanese only).

<https://www.waseda.jp/inst/wavoc/>

<https://www.facebook.com/waseda.wavoc>

@waseda_univ_WAV

wavoc.waseda

メールによるニュース配信の申し込み
To subscribe to our newsletter, visit our website
(Japanese language only).

WAVOCの活動をご支援ください! Support WAVOC's activities!



WAVOCではプロジェクトを資金面で支えてくださる方を広く募集しています。
みなさまのご支援は、現場の活動資金としてだけでなく、社会貢献スピリットを持つ
未来のリーダー育成にも役立てられます。
特定の団体を指定した寄付も可能です。

WAVOC welcomes your donation to support our projects.
Your donation will be used not only for on-site activities, but also for nurturing
future leaders with a spirit of social contribution.
Donations designating specific projects are also welcome.



<https://www.waseda.jp/inst/wavoc/>



早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター (WAVOC)について

2002年4月、本学名誉博士である平山郁夫氏の国際的社会貢献活動とその精神を継承し、
平山氏が推進してきた諸活動を更に推進・発展させ、
ボランティア活動を広く国内外で展開・支援することにより、
地域社会および国際社会へ貢献することを目的として、設立されました。
以来、早稲田大学の社会貢献推進役として活動しています。

WAVOC



WAVOCの理念

1

教育・研究・実践を通して社会貢献を行います

現場体験の知と学術の知を往還することで、
教育・研究・実践が一体となった社会貢献を実現し、
すべての人が平和でより良く生きられる世界の構築を目指します。

2

社会課題に対して当事者意識をもって 取り組む人材を育成します

社会課題の構造的な理解と自己変容を促す学びの機会を提供することで、
社会に主体的に貢献する人材を育成します。

3

新しい社会貢献のあり方を創造します

構築してきた価値を大切にしつつ、新しい時代の社会貢献を常に再定義します。
そして、多様性を尊重しあい、先端技術を視野に入れた活動を行うことで、
先駆的で公共性の高い新たな価値を創造します。

※本誌に掲載しているデータ・教職員や学生の所属・学年等は特に注記がない限り2023年4月時点のものです。





学術の知

学部での 教育・研究

学習への
モチベーション

正課

講義科目
実習演習 科目

課外

早稲田ボ
公認サー
イベント・
スタディツアー

WAVOC の教育 ・研究 ・実践

現場体験の知

現場

当事者
さまざまな立場の人

実践を通じた
社会貢献

科目紹介 1

体験の言語化

自分が心に引っかかった体験を思い起こし、その体験を改めて捉えなおす中で、個人の体験を単なる個人的な経験ではなく、社会の課題に結びつけ、自己を社会に文脈化する思考プロセスを学びます。



「学術の知」と「現場体験の知」の往還。

WAVOCの教育は、学生が「学術の知」と「現場体験の知」を往還して学び、成長することを目指します。

正課では、社会課題の現場に行く「実習科目」を中心とした科目群から、社会貢献・ボランティアの理論と実践を学びます。提供科目を体系的に履修した学生には、副専攻「社会貢献とボランティア」が認定される仕組みがあります。

課外プログラムでは、教員が専門性を生かして指導する「早稲田ボランティアプロジェクト」、学生主体の「公認・登録ボランティアサークル」、ボランティアの入口となる「イベント・スタディツアー」を実施しています。

そして、すべての活動の中で学生が「体験の言語化」を行う点が、WAVOCの教育の特色です。「体験の言語化」とは、学生が自分の活動体験をふりかえり、それを言葉にして語り、社会の課題を発見していく教育手法です。その実践を通して、学生は、社会課題に対する当事者意識を獲得し、さらなる学部での学び(学術の知)へのモチベーションを高めていきます。

WAVOCは、「体験の言語化」を正課科目として提供しつつ、同時に、課外活動の中でも実施しています。

教員紹介



岩井 雪乃 准教授

日本の獣害問題に対して猟師を増やす、アフリカでのゾウによる農作物被害に住民と共に対策する、ソーシャルビジネス起業を支援するなどをしています。



兵藤 智佳 准教授

パラスポーツや被災者支援などマイノリティの支援をしています。



佐々木 俊介 講師

防災教育や被災地支援とともに、スラム街での生活改善のボランティアを行っています。



筒井 久美子 講師

岩手県陸前高田市で学生の皆さんと一緒にできることを探し実践しています。



由井 一成 講師

グローバル・シティズンシップ(地球市民性)教育が専門です。Think globally, act locally. 地球規模の課題解決に、足元から取り組んでいます。

WAVOCは、体験的に学ぶ科目を提供します。

「ボランティアをやってみたい」「誰かのためになりたい」「世界をもっとよくしたい」、そんな想いはありませんか。

「でも、どうしたらいいかわからない」「どこからはじめていいかわからない」。また、「けっきょく偽善じゃないか」

「自己満足じゃないか」「自分がやっても社会は変わらない」と、ためらいを感じていませんか。

そんなあなたの視野が広がり、価値観の変化が生まれる科目を、WAVOCは提供しています。ぜひ履修してください。

また、全学副専攻「社会貢献とボランティア」では、WAVOCのみならず、各学部で開講している社会貢献、ボランティア関連科目を広く学ぶことができます。

科目紹介 2

SDGsと社会貢献

単に知識としてSDGsを学ぶのではなく、その実現に向けて自分自身がどう貢献することができるのか、という問いに迫ります。

その際、受講者自身がグローバル・シティズン(地球市民)であることを自覚するとともに、グローバル社会を自らの手で創造する一員として「自分はどう生きるべきか、どう在るべきか」について考察を深めます。



科目紹介 3

【実習科目】 狩猟と地域おこしボランティア

近年、「狩猟」「ジビエ」は注目を集めており、アウトドアやソロキャンプとともにブームになっています。さらに、現代の日本では、狩猟は社会貢献活動でもあります。この科目では、現場で狩猟の実態を学ぶとともに、狩猟を生かして農山村の地域課題を解決するボランティア活動に取り組みます。



さらに詳しく▶



WAVOCを 活用しよう

WAVOCで
できること

1

ボランティアに関する相談

はじめての人でも安心。教職員、学生リーダーが相談にのります。
予約は不要です。お気軽にお越しください。
より深い、専門的な相談に対しては、
教員によるボランティア・アドバイザー制度を設けています。

Take advantage of WAVOC

2

ボランティアの情報収集

WAVOC主催ボランティアはもちろん、社会福祉協議会はじめ、
学外団体主催のボランティア情報がたくさん。
地元での活動など、身近なボランティアが見つかるかもしれません。
ウェブサイトにも募集中のボランティアやイベントを掲載しています。



4

ボランティアサークルの支援

早稲田大学には多くのボランティアサークルがあります。
所定の条件を満たしたサークルを対象に施設利用や広報協力、
サークル同士の交流イベント開催等の支援をしています。



5

図書の貸出

ここにしかない図書がたくさん。
ボランティアや社会貢献に関する図書を揃えています。
テーマ別に並んでいるこれらの図書は、二週間の貸出ができます。
ボランティアや社会貢献について知見を深めたい学生に
おすすめです。



3

ボランティアへの参加

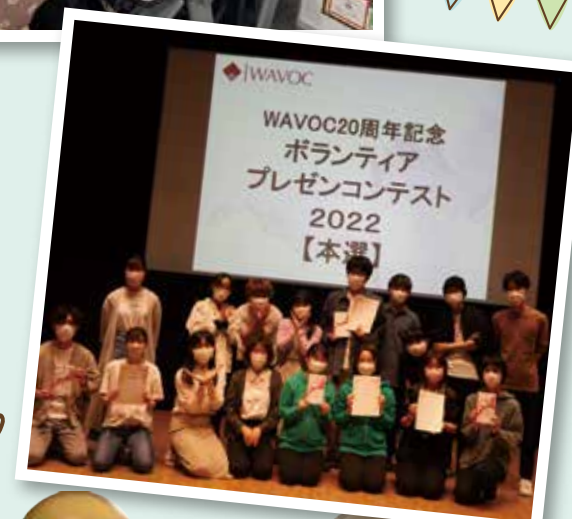
WAVOCはボランティアやセミナー、交流会等、様々な活動を用意しています。
一度だけの参加も歓迎ですので、是非ご参加ください。
また、「こんなボランティアをしてみたい」というご希望がありましたら、
ご相談ください。



WAVOC学生リーダー

多くの学生にボランティアを広めるため、教職員とともに
ボランティア活動を企画・運営している学生スタッフです。
学生目線で、皆さんの活動を応援します。
学生リーダーを募集する際はWAVOCウェブサイトに掲載します。
共に早稲田大学のボランティア活動を盛り上げてくれる学生の
応募をお待ちしています。

さらに詳しく▶



自分に合ったボランティアに参加しよう

Join the right
volunteer program for you!

1

早稲田ボランティアプロジェクト (ワボプロ)

WAVOCの教員それぞれの専門性を活かし、その指導の下、年間を通して活動するプロジェクトです。
活動地への貢献にとどまらず、学生自身が主体性をもって取り組み、成長していくことをサポートします。

さらに詳しく▶



長期で活動するプロジェクトやサークルから、
短期間、単発のボランティアやスタディツアーなど、
様々な活動機会を用意しています。
ご自身のペースに合った活動に参加してはいかがでしょうか。



3

WAVOC主催ボランティア

WAVOCは学内外でのボランティア活動やスタディツアー、セミナー、交流会等を開催しています。また、自然災害発生時は、被災地での災害復興支援ボランティアにも取り組んでいます。いずれの活動も教職員、学生リーダーが引率しますので、初めての方でも安心。継続的な活動から一日だけの活動もありますので、まずは一回、是非参加してみてください。

【活動例】

- ④ 高尾の森づくりスタディツアー
- ④ Beach Clean Project
- ④ 気仙沼みなと祭り運営支援
- ④ 車いすクリーニングボランティア
- ④ 子ども英会話教室
- ④ 日本の子供の貧困について考える
(オンラインイベント)
- ④ The Volunteer Program for Ukraine
報告会 in 早稲田大学 など



2

WAVOC支援ボランティアサークル

早稲田大学には多くのボランティアサークルがあります。
地域交流、環境、防災、教育、国際交流、農業等、国内外の様々なフィールドで学生達が活動しています。
毎年4月に開催している「ボラカフェ」では、多くのボランティアサークルがブースを出展して活動紹介を、5月の「ボランティアプレゼンコンテスト」ではテーマに沿った発表を行っています。

さらに詳しく▶



4

学外団体主催ボランティア

学外のNPOや自治体、学校等から寄せられたボランティアのうち、WAVOCの活動方針に合った活動を紹介しています
(WAVOC教職員、学生リーダーによる引率はありません)。



Check!!

ボランティアに参加する前に

ボランティア活動中の万が一の事故や怪我に備え、ボランティア保険に加入しましょう。お近くの社会福祉協議会で加入を受け付けています。WAVOCに申込書を用意しておりますので、お問い合わせください。加入年度有効です。4月になりましたら、再度の加入を忘れずに。

令和5年度版 ボランティア保険のご案内



Voices
of Participants

栃下 航輝 さん
(2023年社会科学部卒業)

公認サークル
「気仙沼チーム」に参加



私たちは、宮城県気仙沼市を拠点に復興支援活動や地域活性化に取り組む団体です。気仙沼ではイベントのお手伝いや公募学生に対するスタディーツアーの開催、東京では早稲田祭などを初めとした場でのPR活動、noteでの情報発信やフリーペーパーの製作を行っています。

初めて気仙沼を訪れたのは大学1年生の6月で、初めて訪問した被災地でもありました。震災から8年が経過してもなお、市内に残る更地の多さに驚いた事が記憶に強く残っています。

一方で4年間の活動を通じて、現地訪問の度に風景を変える気仙沼の港を見ながら、復興へ向けて次々と踏み出す町の力強さを感じました。そして、私たちを温かく迎え、支援してくださる沢山の町の方々の存在に助けられました。「第二のふるさと」である気仙沼の復興の手助けになるような活動を続けたい、と思えた4年間でした。

活動の中で強く感じたのは、11年をかけて築き上げられた早稲田と気仙沼の繋がりの強さです。私たちの活動は常に地域との信頼関係や協働があって成り立つものであり、



参加者の声

世界が違って見えるようになった WAVOCでの体験

Voices
of Participants

長谷川 遥香 さん
(法学部3年)

早稲田ボランティアプロジェクト
「フードグローバルプロジェクト」
に参加



フードグローバルプロジェクト(略称フグプロ)が目指すのは多文化共生社会の実現です。学生ならではの観点で、地域の在日外国人が抱える問題に目を向け、グローバルな問題の解決に向けた糸口を探ることを目標として活動しています。難しく聞こえるかもしれませんが、大切にしているモットーはシンプルで、他者との「対話」です。

対話は、メディアが取り上げない様々な問題を知る機会となります。私たちが対話の中で見てきたのは、在住資格の取得・更新に苦悩する姿でした。「ビザ申請の電話で日本語がうまく話せず対応してもらえなかった」という事実は、この活動がなければ知ることはなかったと思います。


そして「問題は人の数だけ存在する」ということにも気づきました。発見した課題を自分視点で一括りにしてしまうと、独りよがりで自己満足のための活動になってしまいます。対話を重ねた上で、本人たちの真のニーズに応えられているか自問自答することが常に求められます。相手に貢献したい気持ちだけでは多文化共生社会は実現しません。相手の立場に立って、その人が何を求めているか考えるこ

との大切さを、フグプロで学びました。

このように対話の際は、相手との対等な関係性を大切にします。援助一被援助の関係を脱した相互関係を築くこと。現場重視のフグプロでの経験を通して、法学部の授業やゼミでは見逃してしまう、一人一人の声に傾聴する姿勢を身に付けられたと感じています。



WAVOC所長メッセージ
Message from the Director of WAVOC



早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター
所長 松居 辰則
(人間科学学術院教授)

『社会貢献活動で先頭に立つ人材の支援を』

早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(WAVOC)は2002年に設立され、早稲田大学の教育、研究に次ぐ使命である社会貢献活動の推進役を担っています。

地球規模の問題が多数に存在する今日の社会に学生を送り出すには、大学が知識を教授するだけではなく、知識に加えて、社会貢献活動への意識を高めて主体的に担える力が必要です。WAVOCでは様々な社会活動を通じた体験的な学びの場を広く提供してきています。

さて、早稲田大学では教育・研究のポリシーとして「人間の力量」をもった人材の育成を目標としています。「人間の力量」とは次のように説明されています。

『早稲田大学の卒業生が地球上のどのような地域に行っても、そこに溶け込みサバイブし、その地域社会の価値観を学んで、その結果として自分の故郷の地域社会でも、または行った先の地域社会や国に貢献する場合でもよし、または自分の国やその国の民間企業に貢献するのでもよし、さらに国際機関・国際企業などを通して地球上の大きな地域(region)または国際社会に貢献すること。どの分野であっても、周囲の人々の幸福の実現を目指す強い意志をもち、多様な価値観や文化的背景をもった人々を一つにまとめ

上げこれをリードする力量』

そして、この「人間の力量」には「たくましい知性」と「しなやかな感性」の両輪を備えることが必要であるとも説明されています。「たくましい知性」とは明確な答のない課題にも果敢に挑戦し解を導く能力をさし、これは各学部の専門教育や全学基盤教育がその礎を築きます。一方、「しなやかな感性」とは様々な状況での多様性を享受し、共感力をもって人々をまとめ上げリードする力をさします。WAVOCは「ボランティア」を通してこの「しなやか感性」を育成するための様々なプログラムを準備しています。具体的にはボランティア活動の基盤となる講義、体験型授業、ワークショップ、国内外での活動、様々なイベント等です。理論のみならず実践を通して、理論と実践のサイクルの中で「しなやかな感性」を自らの力量として習得するための機会を提供しています。

新しい時代に向けて大学の機能は大きな変革が求められています。WAVOCも今までの「ボランティア」の範囲と方法を再定義して、研究・教育・実践が一体となった新しいボランティア活動を教育プログラムとして提供して参ります。WAVOCはこれからもより多くの学生が「人間の力量」を備えた真のグローバルリーダーとして活躍できる人材となれるようますます支援して参ります。

被災地支援活動に取り組んでいます

WAVOCは、自然災害の被災地に学生ボランティアを派遣し、復興支援活動に取り組んでいます。その活動内容は、泥かきや流出物の撤去にはじまり、復興イベント・観光支援、スポーツ・文化交流、仮設住宅でのコミュニティづくり、子どもを対象とした学習支援、翻訳など多岐にわたります。

「被災地のために自分たちにできることはないか」

そのような熱い思いを持つ学生達を、WAVOCは支援しています。



学生災害支援ボランティアの 心得10か条

WAVOCはこれまでたくさんの学生ボランティアを応援してきました。

この10か条はそうした私たち学生ボランティア支援者が持つ、

言葉にはしていなかった経験知を短くわかりやすい言葉で表現したものです。



- 第1条

ボランティア保険(災害プラン)に入る

ボランティアの基本は「自己責任」です。何か事故や病気があっても自分で対応することになります。保険に入ることはそのための準備になります。
- 第2条

不眠不休で頑張らない

被災地では気持ちも高ぶり使命感から精一杯活動することになりがちです。しかし、疲労から体調を崩すのは相手に迷惑になります。活動中でも休む判断をすることが大切です。
- 第3条

被災地では信頼できる人と一緒に行動する

活動をするにあたっては安全に十分に注意してください。被災地で起こりがちな危険な問題に巻き込まれないためにもできるだけ単独行動は避けてください。
- 第4条

まずは相手の話を共感的に聞く

被災者を少しでも元気づけようと「○○さんの分まで頑張ってください」「元気になってください」と言いがちです。励ましの言葉を軽々しくかけないことも大切です。
- 第5条

被災者が自分たちでやる仕事を取らない

被災地に行くことができることをすべて「やってあげたい」という気持ちになりがちです。しかし、復興するのは現地の人たちです。その力をどう応援できるかが大切です。
- 第6条

涙が止まらなくなったら活動をやる

悲惨な現状や嗚咽する人などに接する場合、自分も心の傷を受けることがあります。自分の心をコントロールできない時はその場から離れたり自宅に帰る決断をしてください。
- 第7条

できないことは「出来ません」とはっきり断る

被災した人の依頼を断るのは難しいことです。しかし、無償のボランティアでも「やります」と言ったことには責任が伴います。無責任にならないように行動することが必要です。
- 第8条

相手の感情に巻き込まれ過度な哀れみや同情をしない

被災者の話を聞くことで感情が揺さぶられることもあります。しかし、「かわいそう」と思うことが相手の支援になるわけではないことを覚えておきましょう。
- 第9条

子どもと遊ぶときなどは過度に喜ばせようとしない

ボランティアのお姉さんやお兄さんと遊ぶ体験は子どもにとってはうれしい時間です。しかし、非日常で興奮したあとの面倒は誰かが見ることを意識してください。
- 第10条

ボランティア活動の運営について批判はしない

被災地のボランティア活動では「仕事がない」、「指示が悪い」などの批判もあります。しかし、憤慨しても何も生まれません。できることは何かを自分で考えて行動しましょう。

災害支援ボランティア活動における交通費補助について

WAVOCでは、災害支援ボランティア活動を行う学生の経済的負担を軽減することを目的に、活動地までの交通費を補助しています。

原則として、災害ボランティアセンター等を通してのボランティア活動で、活動地までの交通費が対象です。

これらの補助には、校友、企業、団体等、皆様からの寄付金を活用させていただいています。

About The Hirayama Ikuo Volunteer Center (WAVOC)

The Hirayama Ikuo volunteer center was established in April 2002, to carry on the international social contribution activities and spirit of Ikuo Hirayama, an honorary doctor of Waseda University.

The purpose of the organization is to contribute to the local and international communities by further encouraging and developing the various activities promoted by Dr. Hirayama, and by expanding and supporting volunteer activities both in Japan and abroad. Since then, WAVOC has been playing a role as a promoter of social contribution at Waseda University.



Philosophy of WAVOC

1

Contributing to society through education, research, and practice

WAVOC combines field-experience with academic knowledge to realize social contribution that integrates education, research, and practice. Our goal is to build a world where everyone can live in peace and betterment.

2

Developing human resources with a sense of ownership of social issues

WAVOC will develops human resources who will proactively contribute to society by providing learning opportunities that promote structural understanding of social issues and self-transformation.

3

Designing new forms of social contribution

WAVOC constantly redefines social contribution based on the context of the new era while respecting the values that have been built up over the years. Furthermore, WAVOC creates new values that are pioneering and highly public by respecting diversity and taking cutting-edge technologies into consideration.



Supporting Students



Extend yourself and build relationships with others.
“WAVOC style” lets you grow.

1 Going back and forth between courses and projects

Through its University-wide Open Courses, which are regular curricular courses, and its support of extracurricular projects, including volunteer projects and Circles, WAVOC enables students to apply course-based knowledge in the field, and bring back field-based experience to the classroom for further learning. Through participation in the University-wide Open Courses, students acquire knowledge and information aimed at taking action in addressing social issues and developing practical means of implementation. WAVOC provides many hands-on courses that include field experience through practical training, volunteerism and advocacy, which leads students to *take action*.

2 Find values and relate them to life and work.

Through volunteer activities, students meet a variety of other people, leading to deep engagement and meaningful dialogue. These experiences let them discover things of value to themselves, which will motivate and guide them in their lives and work.

3 “Contextualizing Self in Society”

The “Contextualizing Self in Society” course involves classes composed of a small group of 15 students per instructor. The participants will recall an experience that bothered them, and re-interpret it. While doing so, students will learn a thinking process that enables them to relate their personal experiences to social issues, and “Contextualize Self in Society”. Through the eight lectures offered over the quarter, they will crystallize their thoughts in the form of a 5-minute story-telling.

“Contextualizing Self in Society” aims to transform students with a passive attitude, who are overly theoretical and good at criticizing, but tend not to take action, into students who proactively learn and take action.

It encourages participants to start identifying issues in society and their own experience, deliberate about them, and take action. The course will support participants in taking their first step forward.

Learning from
“University-wide Open Courses”
to acquire academic knowledge
and connect it to experience.

Working on
“Projects”
Take action against
social issues.

To live and
to work

Volunteer
experiences

Something
valuable
to oneself

Ability to tell
their experience in
“their own words”

Ability acquired through
“Contextualizing the Self in Society”

Ability to identify
social issues based
on their experience

Ability to transform
their experience into
willingness to learn

Take advantage of WAVOC

1

Consultation on volunteer activities

WAVOC faculty, staff, and student leaders will suggest volunteer opportunities to suit your needs. Feel free to visit us. Reservations are not required.

2

Volunteer information

WAVOC has a lot of information on volunteer activities sponsored by the Council of Social Welfare and other off-campus organizations. Find volunteer opportunities in your neighborhood or nearby locations. Our website also provides volunteer activities and events that are accepting applications.

3

Participation in volunteer activities

WAVOC offers a variety of volunteer activities, including seminars, and social events. One-time participation is also welcome. Come and join us.

4

Support for Volunteer Clubs

Waseda University has many volunteer clubs. The clubs recognized by WAVOC are eligible to receive support in the form of use of facilities, cooperation in public relations activities, and participation in inter-club exchange events.

5

Book lending

Find books on volunteering and social contribution at WAVOC. Books can be borrowed for two weeks.

Message from the
Director of WAVOC

“We encourage students to take a leading role in social action activities.”



Tatsunori MATSUI
Director of The Hiramano
Ikuo Volunteer Center
Professor,
Faculty of Human Sciences

The Hiramano Ikuo Volunteer Center (WAVOC) was established in 2002. WAVOC is responsible for promoting social activities, which is an important mission of Waseda University along with education and research. In preparing students for present-day society with its various global problems, merely imparting knowledge at universities is not enough. Today's students must be aware of the importance of social activities, not just knowledge, and be able to take the initiative in various activities. WAVOC provides a wide variety of work-study programs to help students gain this capability, offering experience of a variety of different social activities. Waseda University aims to nurture its students to develop personal skills as the principles behind education and research. Personal skills are explained as follows; graduates from Waseda University should be able to blend into any community in the world, survive there, learn the values of the local community. Moreover, based on such experiences, the graduates should be able to contribute to any society such as their own hometowns, to a local community or a country to which they move, and to their own country or a private company in that country, and beyond this to a bigger region and international society through international institutions and global corporations. The personal skills that the university aims to nurture is the ability to unite and lead people with

different values and cultural backgrounds and a strong desire to promote the happiness of the local people in any field. Personal skills should be accompanied by a powerful intelligence and supple sensibility like two wheels of a cart. Powerful intelligence refers to the ability to tackle challenges that have no definite answer and to draw out an answer. The specialized education that the faculties provide and a program called University-wide Minor System form the basis for this. Supple sensibility relates to the ability to accept diversity in various circumstances and to unite and lead people sympathetically. WAVOC offers many different programs for nurturing a supple sensibility through volunteering, such as lectures as a basis for volunteer activities, experience-based classes, workshops, activities both in Japan and overseas, and various other events. We provide our students with opportunities to acquire their own supple sensibility in both theory and practice and in a cycle of the two. Universities must change their functions toward a new era. WAVOC redefines the scope of and methods for volunteering and provides new volunteer activities as an educational program by incorporating research, education and practice in an integrated manner. WAVOC will support as many students as possible who hope to play active roles as real global leaders who have an appropriate set of personal skills.

